

「幼保一体化計画の見直しについて（案）」に対する 意見の概要及び意見に対する三木市の考え方

意見募集期間 令和3年12月24日（金）～令和4年1月28日（金）

意見提出者数 19人（80件）

【パブリックコメント全体に対する教育委員会の考え】

子育て関係法において、市は乳・幼児その他児童について保育を必要とする場合において、市の設置する保育施設または、市町村以外の者の設置保育施設に入所を委託して、保育しなければならない。と規定されています。

市は、まずしっかりと3歳児からの受入を確保し、待機児童が発生しないよう（民間）園の定員変更など調整・協力を得ながら受入れ枠の確保を進めています。

現在、市内のすべての（民間）こども園等には、法に定める幼保連携型認定こども園の学級の編成、職員、設備及び運営に関する基準に従い、園児一人当たりの施設面積や保育教諭の配置基準を上回る保育環境を提供しています。

特に、他市にはない条例で定めた2年に1回実施する評価において、教育・保育の学識経験者による指導・助言を受け教育・保育の質の向上を図っています。

また、その評価の中で保護者及び園で働く保育教諭から無記名のアンケートを実施し、保護者だけでなく、共に園で働く職員の思いも受け止められるようにしています。

これまで、三木市が国に先駆けて実施した3歳児以上の保育料の全額免除や今も他市よりも手厚い0～2歳児の50%軽減、副食費の全額補助など、子ども・子育て支援施策により、三木市の就学前の児童数の減少を抑えることができました。

今後も、子ども・子育て支援を進める中で、毎年、就学前の児童数及び就園希望児童数の動向を確認し、子どもを中心に据えた施設定員の見直しや保育教諭の確保を進め、3年ごとに全体の計画についても見直しを実施します。

1 公立幼稚園（緑が丘東幼稚園）の廃園に関すること

【意見】

1	緑が丘東幼稚園、廃園保留をお願いします。
2	是非、幼稚園残して欲しいと思いますm(_ _)m
3	緑が丘東幼稚園の存続を希望します。青山にはこれからも公立幼稚園が必要です。

4	三木市立緑が丘東幼稚園存続を強く願います。幼児期の基盤である根っこにたくさんの栄養を与えてくれる先生方や環境を失くしたくないです。市外の方に三木市の良さを伝えるとしたら自然豊かな環境と伸び伸びと子育てしやすいところだと思っています。緑が丘東幼稚園に通ったからこそ、よりこの想いが強くなりました。今一度緑が丘東幼稚園廃園を考えていただきたいです。
5	緑が丘東幼稚園存続を希望します。
6	地域の中核にもなる緑が丘東幼稚園の必要性について再考を願います。市の発展は未来を担う子供たちと、妊娠、出産、子育て支援を削ることではありえません。また、公立幼稚園が担うプレスクールとしての役割もあります。年に数回の小学生との交流、給食の配膳、毎日の教室・階段掃除（箒で掃いたり、ぞうきんがけ）、遊具の準備・後片付け、分かちあいの時間（聴く力・プレゼンテーション力・想像力・協調性を育む）等はこども園ではほとんど取り組めていないのが現状です。一例を挙げても、外遊びの平均値は幼稚園約90分/日、こども園約30分/日と3倍もの開きがあります。令和元年度の兵庫県児童生徒体力・運動能力調査報告書によると、ほとんどの種目において昭和60年の児童生徒よりも低下しているという結果がでており、外遊びは推奨されています。外遊びは生きる力、命を繋ぐ力、企業が求める主体性、非認知能力を育む等のメリットがあるとされています。子供達の体力低下は医療費、介護費の増加に繋がる可能性が示唆されており、幼稚園は小学生の遊び場や園児以外の親子の居場所でもあり続けています。それを無くすことが子育て支援になるのでしょうか。
7	色々な幼稚園に通った息子たちが緑が丘東幼稚園が一番たのしかったと口を揃えて言っております。そこに孫も通えると喜んでおりました。こどもたちのいい所を伸ばしてくれる、自主性を育てて自信をつけてくれる、そういう幼稚園が大人の都合で無くなってしまいうのは残念で仕方ありません。どうか存続に向けてよろしく願いいたします。
8	「100年の計は教育にあり」緑が丘東幼稚園含む市立幼稚園の廃園延長、存続を強く求める。市立幼稚園/保育園、認定こども園の共存が三木市の教育の質を高める！
9	緑が丘東幼稚園の廃園について、慎重な判断をお願いします。本当に廃園が妥当であるのか、丁寧に状況をくみ取るために、次回の見直しが行われる令和6年まで廃園を延長していただけたらと思います。 公立幼稚園が閉園してしまったら、二度と復活することはできません。一時的な増加を民間園に押し付けることになります。保育士確保の課題もあり、不安要素が残ります。
10	入れないこどもが出た場合の受け皿として、緑が丘東幼稚園の存続を希望します。
11	青山緑が丘地区に公立3年制幼稚園の存続を切に希望します。
12	緑が丘東幼稚園の存続を希望します。広い園庭、自然豊かな環境でこのような価値ある財産を、無くさないでほしい。
13	三木市が誇れる教育をしている緑が丘東幼稚園の閉園には反対します。
14	緑が丘東幼稚園は令和5年以降も存続すべきと思います。
15	7丁目開発に伴い、世帯数が増加することも加味し、閉園を撤回していただきたいです。
16	保留児童のないよう幼稚園の閉園時期など見直しをお願い致します。

17	<p>昨年5月より、公立幼稚園の今後の在り方について、青山・緑が丘地区の保護者からの不安の声やご要望が強く、市長様はじめ、教育長様、教育委員会の担当者様に保護者の思いを直接届けてきました。その中で、こども園1号認定児の募集・結果を早めて頂いたり、公立幼稚園での一時預かり制度を開始していただいたり、様々な改善をして頂きましてありがとうございます。中でも、自由が丘幼稚園と三樹幼稚園の廃園時期の延長を検討して頂けたことは、子育て世代としてもとても安心で感謝申し上げます。ただ、緑が丘東幼稚園については、当初の予定通りの令和5年度に廃園が変更になっておらず、保護者の間では落胆と不安と疑問が広がっています。再度、保護者や地域の思いをくみ取って頂き、子どもにとって最善の施策になるように検討をお願いいたします。</p>
18	<p>情報都市計画や7丁目建設が具体化するまで、緑が丘東幼稚園を延長し、廃園決定を保留にして頂きたい。</p>

【三木市の考え方】

現在の幼保一体化計画の基本的な方針である民間主導の幼保連携型認定こども園に移行していくことに変更はありません。したがって、公立幼稚園4園は補完的な役割を担います。このたびの幼保一体化計画の見直しにおいては、人口推計をもとに就学前児童数の減少幅が小さく、民間施設で1号認定児の受入れが困難と予測される小学校区については、公立幼稚園4園のうち2園の廃園時期を延期することとしています。緑が丘東小学校区については、今後も児童数が減る見込みとなっていることから、現在の近隣民間施設の定員数で1号認定児を受入れできるため、緑が丘東幼稚園においては現行のとおり、令和5年度末で廃園します。

2 青山7丁目の開発に関すること

【意見】

1	<p>今回、青山7丁目開発について指摘があったにも関わらず、具体的な数字を待つことなく緑が丘東幼稚園の廃園を決定するのはどうかと思います。市長がどれだけHPや年始の挨拶で7丁目開発に触れていても、青山や緑が丘の住民は、緑が丘東幼稚園の廃園決定を見て落胆しています。それぐらい住民に与えた衝撃は計り知れないものがありました。行政と地域が一緒になって進めて行く、青山での市政懇談会での言葉が思い出されます。3年先、5年先を見つけてください。トカイナカ、とはよく言ったもので、都会の良さ（民間企業）、県立公園や図書館の充実、公立幼稚園や保育園がまだ残っていることも三木市の魅力の一つです。</p>
2	<p>こども園で補いきれない子供数を公立が担っていくという市の意向は、今後青山7丁目開発などによって増える子育て世代の人数を見込んでいるのでしょうか。</p>
3	<p>市長が4つの政策として掲げている一つである青山7丁目建設が決まっているのにそれを数字として含めず、教育の充実を自負している地域が訴えている公立園を無くしてしまうことに疑問を感じます。せめて7丁目建設の数字が出て、状況をつかめるまで延長し、検討するのが妥当ではないでしょうか？</p>
4	<p>青山7丁目計画を見据え、受け皿の大きい（人数的にも、園児や保護者の多様性をカバーできるような）教育環境を準備すべき。</p>

5	<p>公立幼稚園を存続できない理由のひとつに、この先青山地区の乳幼児数増加が見込めないためという事が挙げられている様ですが、新しい地区（7丁目）の開発計画があるのにもかかわらず幼児数の減少を見込んで、尚且つそれを致し方なしとしている考え方に、若い世代を呼び込むことに対して消極的な姿勢が見え、この先三木で子育てをしていって大丈夫なのか不安を感じています。三木ののびのびとした環境や、その環境を活かし子ども達に寄り添った保育をしてくださる公立幼稚園の教育方針を良いと思い、わざわざ公立幼稚園を選んで通っている方もいらっしゃいます。</p>
6	<p>緑が丘東幼稚園の廃園時期見直しにあたって、情報都市計画並びに青山7丁目建設の計画が具体化されていない理由から、このことは考慮せずに計画の見直しがされています。この計画がなくとも緑が丘に関しては高齢者と若い世代の住居の循環が多くなってきており、青山も空き家になるとすぐに若い世代が入居されたり長い間空き地だったところに家が建ったりしています。子どもが小学校に入るまでに移住地を決めたいという家庭は多く、今後もこのような状況が進んでいくように思われます。7丁目の建設が始まり、情報都市の計画が動き出すと、更に青山は新しい世帯の流入が進んでいくものと考えます。新しく入ってくる家庭にとって、小学校校区の乳幼児施設の受け入れが整っていないのはマイナスです。また、教育はまちづくりにおいても重要な役割を担っていると考えます。三木市としての、情報都市計画並びに青山7丁目建設の計画から人口増への思いがあるのかお聞かせください。街づくりと幼児教育の関係性についてどのように考えておられるのかをお聞かせください。</p>
7	<p>三木市 HP によると、令和3年5月に兵庫と三木市が共同で「ひょうご情報公園都市次期工区の産業団地整備に関する基本合意書」を締結しています。将来的に、情報公園都市で働く人たちが住む場所として緑が丘東小学校校区を選ぶ可能性もあるため、就学前施設を充実させていくことは、定住をうながす安心材料にもなります。また現在青山7丁目開発も進んでおり、住宅整備が進めば人口増加の可能性がります。</p> <p>この青山7丁目開発について市に確認したところ、「まだ具体的な計画が完成していないため、予測の数字を入れることができない」という回答でした。三木市 HP のトップページにもあるように、青山団地再考プロジェクトは市の大きな事業です。数年内は難しくても、10年以内には何らかの影響が出てくることが考えられます。その点については、「2号認定児枠のあきを1号認定次枠に移行して対応」としていますが、この数年間市の予測通りにいかず何度も公立施設の閉園時期が各施設で延長となっていることを考えると、保護者の不安は尽きません。さらに、もしかしたら、青山7丁目開発そのものすら、三木市は本腰を入れていないのではないかという疑いすら浮かんできてしまいます。</p>
8	<p>7丁目の開発等で新しい若い世帯が入居しようとした際、誰でも、どのタイミングでも受け入れてくれる受け皿がなくなると、入居をためらうことになる。若い世代を呼び込むチャンス逃すことになりかねない。</p>

【三木市の考え方】

青山7丁目の開発については、交流エリア以外の住宅エリアの土地（5.5ha）を大和ハウス工業が整備しますが、その内容や規模、スケジュール等が示されておらず、今後の開発計画や就学前児童の人口推計に用いる母親となる世代の人口についても分からない状況です。定住が促進されていくには、まだまだ時間を要すると考えています。

今後、毎年就学前の児童数及び就園希望児童数の動向を確認し、必要な定員見直しを行うとともに、3年ごとに全体計画の見直しを実施します。

3-1 3歳児保育に関すること

【意見】

1	3歳児で溢れた園児を公立で補完すると決めたならば、本来なら公立を3年保育にし、溢れた者を受け入れるべきだと思う。
2	公立幼稚園でも3歳児保育と国が示している長期休暇中も保育の必要性の認定を受ける預かり保育（新2号）を実施して頂きたい。幼保一体化計画では、3歳児はこども園が担うという計画のようですが、3歳児からの入園希望の家庭が、当初の見込とズレがあるので、3歳児から公立幼稚園が補完的役割を担えるように計画の見直しをお願いしたいです。保護者は、4歳児からでなく、3歳児から集団生活を経験させたいのです。必ず、3歳児から入園できるように責任をもっていただきたいです。

【三木市の考え方】

3歳1号認定児は認定こども園が受入れを担っていく方針としており、民間・公立に関わらず受入れ枠を確保していきます。

3-2 3歳児無償化に関すること

【意見】

1	国が3歳児無償化を決めたのに、教育を受けられる子と受けられない子が出てくるのは不公平である。希望する者が誰でも平等に教育を受けられるようにするには公立の存続は無くしてはならないと思う。都度民間の少ない枠を調整するのではなく、安心感のある受け皿を確保しておいて欲しい。
2	三木市では3歳児からの無償保育が導入されていますが、3歳児において園に入れる入れないで差が生まれてしまっているのが残念です。
3	就学前教育に関して、3歳児からの無償化制度の影響、同世代とのかかわりの重要性、保護者の育児不安や支援の必要性から、近年、全国的には、4歳ではなく3歳児から教育を受けるのが当たり前になってきています。三木市は、3歳児で入園できない場合、4歳児で入園できれば良いとの方針のようですが、幼保一体化計画で公立は補完的役割を果たすとなっています。近隣の市のように、補完的役割として公立幼稚園の3歳児保育を導入しない理由、見直しをしない理由をお聞かせください。

【三木市の考え方】

当初の幼保一体化計画においては、3歳1号認定児は認定こども園が受入れを担っていく方針としております。今回の見直しで、概ね20%の家庭が1号認定を希望されていることが分かりました。市においても、3歳児以上の児童については、就学前の大切な時期と捉えており、そのニーズに応えるため、受入れ枠を確保します。

なお、現時点で令和4年度の1・2号認定児の受入れ枠については確保しています。

4 園の選択に関すること

【意見】

1	高齢者の安心も考えようとするなら、これからもっと市内に支え手が必要です。子どもの居場所の選択肢を狭めることが得策とは思えません。これからもっと、子を育てるということに力を注がないといけないと思います。子どもたちの選択肢を残し、市の発展を目指しませんか？
2	子育て世代一人一人の親が選択できる、そんな三木市であってほしいと思います。
3	将来子どもたちが結婚して、子育ては三木市でと思っています。三木市は子育て世代が住みやすいまちというからには、小学校入学前的人格形成に大切な時期に、こどもたちの教育の選択肢を無くさないでいただきたい。
4	公立幼稚園には、数字には表れない以下のような役割があります。 家庭の就労希望どおりに、就園先を選択できる 個人的は、特にこのことが気になっています。主に母親に関して、自分自身の就労よりも子どもの就園（子どもの通園先や、何号認定なら入園できるのかといった事情）が優先され、働きたくても働けない、または働くつもりがないのに働く必要が出てきた、という現状や、そういった提案を受けて混乱する保護者も、ここ数年何人も見てきました。これでは本末転倒です。
5	民間と公立が共存し、互いを高め合い選択できる制度を確保しておくことも大事だと思う。
6	子どもの人数が多いと園生活に慣れない子もいると思います。我が子も3歳の時、こども園に入園したが、縦割り保育で年上の子と折り合いが悪く、毎朝登園を嫌がり泣いていました。休ませることもありました。今は幼稚園に行くのが楽しくて生き生きしています。その子たちの為にも受け皿として幼稚園を残して欲しいです。 入園できることも大切ですが、入園後の環境は最も重要なことだと思います。多くの施設があり、その中から大切な幼児期を過ごす場所を選択することが出来る三木市であって欲しいと願っています。
7	「トカイナカ」ランキングで上位に入った三木としては、公立幼稚園の良さも市のアピールポイントにして、こども園と様々な面で補い合う形で共存していけばいいのに、と個人的には感じています。

【三木市の考え方】

平成27年3月の幼保一体化計画により、三木市は幼稚園・保育所部分を併せ持つ認定こども園へ移行していくことを推進しております。

三木市では市独自に「三木市就学前教育・保育共通カリキュラム」を作成し、市内全ての就学前施設で、このカリキュラムに沿った教育・保育が実施されており、基本的な保育内容について、公立と民間に違いはありません。

5 通園に関する事

【意見】

1	希望園に入ることが出来ず、市内とはいえ遠方の車で通園しないといけない保育園に割り振られたりする場合があります。
2	地域から、自転車で通える範囲で子供を預けられなくなるのも、困ります。

【三木市の考え方】

入園申込の際にその旨を聞き取り、入園調整で、できる限り配慮しています。

6 特別支援を要する児童に関する事

【意見】

1	軽度発達障がい等、個別の指導計画が必要な幼児・保護者への手あつく丁寧な指導を市立幼稚園等が核になり担って頂きたい。
2	加配の必要なこどもの受け皿としても、緑が丘東幼稚園の存続を希望します。

【三木市の考え方】

公立園だけでなく、全ての民間園において、配慮を要する児童の受入れは行っており、今後においても、受入れ体制の充実を図っていきます。

医療的ケア児の受入につきましては、別所認定こども園や志染保育所が主に担っています。

7 3号認定児に関する事

【意見】

1	8ページ 4. 今後の方向性(2)項記載の「3～5歳児(1・2号認定児)については・・・施設規模を必ず確保します」は、力強い宣言で安心します。3号認定児についても、今後の需要が多いと思います。鋭意努力願います。市民がよろこぶと思います。
---	--

【三木市の考え方】

3号認定児については、民間と公立とが協力し合い、安定した受入れ枠の確保を図るとともに、保育教諭の確保に取り組んでいます。

8 2号認定児に関する事

【意見】

1	パブリックコメントの中に『緑が丘東小学校校区については、現在の近隣民間施設の定員数で今後も1号認定児を受入れられるため、緑が丘東幼稚園については現行予定のとおり、令和5年度末で廃園します。また、住宅開発等によって一時的に児童が増加した場合は、2号認定児枠の空きを1号認定児枠へ移行し、対応します。』と記載されています。緑が丘東小学校区の2号認定児枠の現在と今後の空き状況をお示し下さい。
---	---

【三木市の考え方】

第2園区における2号認定児の過不足状況は、令和4年度から50人以上の空き枠があると予測しています。

9 定員数等に関すること

【意見】

1	この度の見直し案について、人数の読みの甘さを指摘します。幼保一体化計画が出た時も、数字の読みが甘いのではないかと、本当に入れるのか？などを問う質問が説明会の各会場でありましたが、行政の答えは大丈夫、入れるよう努力しますとの事でした。実際に私の子どもは3歳児保育を子ども園では受けられませんでした。
2	こども園にもたくさんの素晴らしい先生がいらっしゃいます。根底にある気持ちは同じでも園児を詰め込みすぎると先生方の本来の力が発揮できないのではないかと心配に思います。保育士の数を増やすことに力を入れて下さっていることはありがたいですが、園児数を分散させることにも力を入れていただきたいです。 子育てするにあたり、地元に戻りたい人たちが帰ってきた時に、こども園にぎゅうぎゅう詰めにした子供達を見てどう思うでしょうか。途中入園すら難しい現状を知ると子育て世代は三木を選んでくれるでしょうか。
3	定員の120%の受け入れている園で、本当に子ども一人一人に接してあげることができているのか？保育士の負担も大きいのではないかと？
4	緑が丘地区には就学前施設が多数あるにもかかわらず、昨年春、緑が丘東小学校校区で1号認定児（教育枠）の3歳児が多数入園保留となりました。4月から入園できないことが、子育て世代の保護者に不安を与えました。にもかかわらず、現状から、緑が丘東小学校校区の1号認定児(教育枠)のニーズは少ないと分析されおり、また将来の人口予測も低く見積もられているため、緑東幼稚園は予定通り廃園という計画です。この将来の子どもの減少予想に疑問を感じます。 「定員に空きがあっても保育士の確保が難しいために入園ができない」という状況があることを度々耳にします。保育士確保については各民間園と市が協力して取り組んでいると聞いていますが、確実に定員通りに入園できるという保証はどこにもありません。
5	こども園での人数調整して無理に定員を増やすより、今ある施設を有効に活用した方が良いでしょう。前回と同様に人口の減少しない時の受け皿として。
6	待機児童をなくし、豊かな教育を行っていくと説明があったが、少しでも施設数が多い程、それは達成し得る。施設は容易に増加できるものではない。何とか施設数を維持できないでしょうか。
7	保留児童のないよう定員数の確保など見直しをお願い致します。

8	民間こども園であふれてしまう子どもの受け皿になるのは公立幼稚園しかないので、いつ転入してきても園児を受け入れてくれる環境づくりが大切。
9	公立幼稚園には、数字には表れない以下のような役割があります。 ・年度途中の転入のしやすさの確保のため、支援の必要な児童に対応するため
10	■■園のように、延長保育など充実を行えば、利用者が地域で均等化され、密状態が解消される。

【三木市の考え方】

就学前の子どもの教育・保育の提供について、当初の理念やねらいは変えることなく、民間と公立とが協力し合い、質の高い教育・保育の実施と就学前施設の安定した受入れ枠の確保を図ります。各園の入園調整等において密な受入れ状況にならないよう十分に配慮しています。

具体的には、幼保一体化計画の見直しの中で、1・2号認定児については、各園110%の定員数を見込んでいます。これは、4月当初に定員の100%が入園した後、転入等で途中入園があった場合を想定し10%を加味した数値となっていますので、受入れは可能と考えます。

10 保育者不足に関すること

【意見】

1	市の説明では「保育施設は足りている」ということですが、現実には「保育士が不足している」ためか、就学前施設の数は充実しているはずの緑が丘・青山地区で、希望通りに入園できない家庭が確かに存在していたのです。そのため、計画通り緑が丘東幼稚園が廃園となってしまうと、入園保留が再度出てしまうのではないかと懸念が残ります。過去の実績からもその懸念は的外れではありません。三木市の計画が実情と外れてしまったことにより、悲しい思いをする保護者をここ数年たくさん見てきました。もうこれ以上、しんどい思いをする子ども、ご家庭を、増やしてほしくありません。
2	保育士、幼稚園教諭の確保については、民間より公立の方が希望者は多い傾向にあり、三木市主導で募集ができると思われます。補完的役割として公立幼稚園での3歳児保育や新2号の預かり保育の制度を整えて、こども園から公立幼稚園を希望する家庭が移れば、ある程度、民間こども園の子どもの人数にも余裕が生まれ、民間園の保育士の確保の負担が減ると考えられます。三木市が責任をもって進めるべき課題であると考えます。

【三木市の考え方】

3号認定児の受入れについては、児童1人当たりに必要な保育教諭を多く確保する必要があるため、保育教諭不足により定員に達していない園もあります。市として学生や潜在保育士を対象に就職支援事業を立ち上げるとともに、民間園とも協力しながら就職フェアの開催や市内高校、保育教諭養成大学等を訪問し、保育教諭確保に向けて取り組んでいるところです。

11 教育・保育の継承に関すること

【意見】

1	長い年月をかけて、これまで幼稚園に情熱を注いできた方々のおかげで今の公立幼稚園の文化が成り立っていると思います。伝統文化と言っていいと思います。カリキュラムややるべきことがわかっている、指導者はそんなに簡単には育たないと思うので、伝統文化を見離すとすると、育てる力も下がってしまうように思います。
2	公立幼稚園には、数字には表れない以下のような役割があります。 ・子育て世代の保護者の不安解消 ・地域の子育て支援の中心的役割、地域住民とのかかわり
3	自然に触れることが多く、制作も感じたこと、観察したことを表現することが多いので、充実感がある。自分の意見を発言し、人の意見も聞く機会があり、コミュニケーション能力、考えて行動する力が培われる教育である。
4	地域との交流がある。引っ越してきた時に同じ5丁目の方と交流することが出来て安心した。様々な年代の方との交流は他では得られない。
5	緑が丘東幼稚園の閉園決定に関して、とても悲しく思っています。どの幼稚園、こども園でも同じ教育が受けられるようにしていく予定とお話をされていましたが、保護者からの視点では一目瞭然で公立での教育を民間でも継承していくことは不可能だと思います。この考えは、今現在幼稚園に子供を通園させているすべての在園児の保護者ももっています。
6	自然に触れることが多く、制作も感じたこと、観察したことを表現することが多いので、充実感がある。自分の意見を発言し、人の意見も聞く機会があり、コミュニケーション能力、考えて行動する力が培われる教育である。
7	公立幼稚園に預かり保育が導入されました。民間の良いところを取り入れ始めました。逆に民間が公立幼稚園の良いところを取り入れたりと共存することはできないのでしょうか。

【三木市の考え方】

全ての保育者は、教育・保育内容の充実を求め、日々研鑽しています。教育・保育は、すぐには結果が出るようなものではなく、目で見える成果という形に表しにくいものですが、公立・民間の良さをそれぞれが取り入れ、継承できるよう、第三者による実地評価の実施や研修会の開催など、教育委員会としてもしっかりとサポートしていきます。

1 2 共通カリキュラムに関すること

【意見】

1	共通カリキュラムの廃止、公立・民間の特色を明確にし、保護者が選択できることを希望する。公立幼稚園の園児数の見込みなどは軽微なものである。重要なのは三木市全体の教育の方向性にある。さらに、市立幼稚園の教育の質と環境を再認識し差別化を図るべきである。三木市の財政にも関わると思うが、将来的に幼児教育全てを民間に委ねて本当に良いのだろうか疑問に思う。
---	--

【三木市の考え方】

三木市では、認定こども園・保育所・幼稚園のどこであっても、等しく質の高い教育・保育を実践していくため、三木市独自の「三木市就学前教育・保育共通カリキュラム」を改訂しながら、就学前教育・保育を推進しています。

また、さらに各園所の良さや特色が加わることで質の向上を図りながら、今後も三木市がめざす共通の子どもたちの育ちを市内全施設で共有していきます。

1.3 クラス編制に関すること

【意見】

1	<p>■■園での受け入れ数が多いですが、現在でも3,4歳児合同クラスであることや5歳児は遊戯室を使用するなど保育環境が心配です。人数が多いため十分な外遊びやのびのびと発達段階に合わせた1学年1部屋確保など、こどもの育ちを考えて欲しいです。</p>
2	<p>■■園は、5歳児クラスを遊戯室内で保育され、クラス編成として、3・4歳児を合同クラスで3部屋を使って保育されています。■■園は、年度によって学年毎か合同かのクラス編成が変わるようです。■■園は、人数が少なくても学年毎のクラス編成となっています。■■園に関しては、子どもの人数減により合同クラスとなる場合には、保護者に説明会を開催してその旨を丁寧に説明されています。3歳児は先生と幼児の一对一の個々の関わりが大切な時期です。その基盤があって、同年代の友達へに関心が向かう発達段階にあります。4歳児は、自分の思いを表出できるようになり、友達とのいざこざも起こりやすい時期です。先生としては、その自己主張を大切な機会と捉えて、気持ちに共感して友達同士の思いを繋いでいく丁寧なかかわりが必要な発達の段階にあると思います。この時期の2年の成長と個人差は激しいので、学年別のクラスにするのが妥当だと考えます。合同クラスでは、年齢の違いを感じにくいために、年上の友達への憧れや年下への思いやりなどは学年別クラスより発揮しにくく、異年齢交流が目的とは考えにくいです。そればかりか、発達年齢に応じた表現活動等がしにくい状態と考えます。何か教育的意図があるようならお聞かせ願いたいです。上記のような状況を鑑みますと、子どもの受け入れ人数を増やすために合同クラスや遊戯室の保育室利用をせざるを得ず、■■園に過度の負担をかけているように思えます。子ども達の保育環境や先生方の職場環境を守る為にも一園に負担を強いている三木市の考え方に保護者としては疑問を感じています。</p> <p>学年別のクラス編成ではなく合同クラスとし、過度な子どもの受入や保育環境を強いる負担を■■園に担わせている理由や今後もその方針を続ける理由をお聞かせください。</p>
3	<p>■■園で人数が少ないところ以外は、学年ごとのクラス編成にし、子どもにとって適切な人数の受け入れにして頂き公立幼稚園を補完的役割で継続していただきたい。</p>

【三木市の考え方】

教育委員会は、大学の教育・保育の学識経験者等による定期的な評価を実施しており、適正な保育環境を確保しています。合同保育のクラスについては、手厚い保育教諭の配置がなされています。今後も就園児童数の受入状況を見ながら、同学年と異年齢の活動バランスを考え、教育・保育の中で育ちが見られるよう園と協力していきます。

14 小学校との交流に関すること

【意見】

1	幼稚園と小学校の交流がなくなってしまう（園でも行っているが希薄になってしまっは困る）。
2	公立幼稚園には、数字には表れない以下のような役割があります。 ・各小学校への円滑な繋ぎ
3	小学校との交流が多い。
4	小学校との交流が容易

【三木市の考え方】

教育委員会としても、各園所と学校との交流が充実していくよう働きかけてまいります。

15 幼保一体化計画の見直しについて（案）に関すること

【意見】

1	「三木市幼保一体化計画の見直しについて（案）」については賛同します。廃園に不安がっている保護者にはていねいな説明をお願いします。
---	--

【三木市の考え方】

就学前の子どもの教育・保育の提供について、当初の理念やねらいは変えることなく、民間と公立とが協力し合い、質の高い教育・保育の実施と就学前施設の安定した受入れ枠の確保を図ります。

■その他のご意見

16 跡地活用に関すること

【意見】

1	緑が丘東幼稚園が廃園になった後の跡地の活用をどのようにするおつもりでしょうか？決まっているのでしたらお知らせ願います。子どもたちも地域とともにのびのび生活できる「とかいなか」三木として市民に寄り添って欲しいです。よろしく願いいたします。
2	せめて、幼稚園の園庭の遊具や、遊び道具、飼育小屋や畑などは、つぶさずに、他の施設に変わったとしても利用できるようにしていただけないでしょうか。子供たちの発達を促すのに、このような素晴らしい環境を有する園は他にありません。

【三木市の考え方】

三木市公共施設再配置方針及び三木市公共施設再配置計画に基づき、進めていきます。

17 交通量に関すること

【意見】

1	毎年小学校PTAの危険箇所調査で、保育園の朝夕の送迎時間に車両の通行が多いことに加えて、スピードを出している車両がいるので危ないということが挙がってきている。実際に危険箇所でも挙がってきている個所で事故も発生している。幼稚園がなくなってしまうと、更にこういう状況が増えると考えられる。地域と子どもの安全の為、徒歩で登園できる公立幼稚園を無くさないで欲しい。
---	--

【三木市の考え方】

就学前教育・保育施設の利用者は広範囲に及びます。徒歩での通園が難しい方も多数あるため、保護者の方には今後も送迎時の安全確保について注意喚起を行ってまいります。

18 市長の考え方に関すること

【意見】

1	仲田市長の「教育にはいくらお金をかけても良い」という言葉を信じています。
2	仲田三木市長に強く要望します。若い世代に子育てしやすい、魅力あるまちづくりを目指して頂きたい。「教育のまち三木」を貫くためにも市立幼稚園の廃園延長、存続に人と財源を投入して頂きたい。幼保一体計画は、教育委員会、市議会に任せっきりにならないで市長自らの強い意志で方向転換して頂きたい。
3	三木市全体の子どもの数と、保育ニーズのバランスを的確に予測すること、また民間施設と公立施設の役割分担・共存が重要だと思います。公立園は補完的な役割を担う、という市の考えに反対はありません。仲田市長のいう「教育にはいくらお金をかけても構わない」という言葉が、「就学前の施設についても、少数意見を無視しないで慎重に検討する」という意味であれば嬉しいと思っています。

【三木市の考え方】

今回の幼保一体化計画の見直し案については、今後の就学前児童の状況などを踏まえ慎重に検討し、決定しました。市長の考えは、今回の見直し案の中に反映しています。

19 市政策に関すること

【意見】

1	存続にあたり一番の問題となるのが財政であろうことはデータを見ても分かります。明石市では子育て世代のサポートにより税収アップ等の利点はあるものの、保育現場では教諭の人数不足等による保育の質の低下も生じています。一方、三木市の幼稚園教育は世界的に活躍されている私立■■幼稚園の■■先生が太鼓判を押すプロ集団です。近年注目されているシュタイナーでもモンテッソーリでも、あるいは教育面でもクオリティー向上により三木市の特徴をアピールすることで、人口流入と税収増加、人材構築を図れないか長期的に考えてみてほしいのです。また、子育て支援とセットでアピールすることで企業の誘致や人・物の流れを三木に構築することができないのでしょうか。■■は企業や教育、行政の躍進、■■はふるさと納税、■■は子育てなど、三木も何かないでしょうか。
2	小中一貫校を進めていますが、10年～30年先の吉川の少ない人数になるであろう場所に三木市はお金をかけると決めています。ならば、どんな子も、もれなく入れる公立の幼稚園も残してください。

【三木市の考え方】

三木市の子育て支援は、就学前の0～2歳児の保育料50%の軽減や、副食費の市負担など、近隣市町に比べて手厚い教育・保育政策を進めています。

子育てしやすいまちをめざし、今後もより一層子育てに関する情報を市内外に発信し、三木市の良さを伝えていきます。

※ 個人や施設が特定される表現・一部伝聞については黒塗りまたは削除しています。